

■ On-Air 3000 ユーザーレポート

株式会社エフエム栃木 様

On-Air 3000

新社屋に移転、全スタジオを On-Air 3000 で統一



■ 3階の第2スタジオ

株式会社エフエム栃木
放送部
瀬下 和男



新社屋移転

平成6年4月1日の開局以来、番組のテープレス化、放送システムのデジタル化、設備の更新、マルチメディア放送の対応、宇都宮市中心市街地の空洞化など時代と共に山積する様々な問題を解決すべく長期的に検討を重ね、平成19年11月、県庁と宇都宮市役所を結ぶシンボルロード沿いに新社屋を建設し移転しました。

1階には朝、夕の生ワイドで使用している開放的なガラス張りのオープンスタジオ（1ST）、3階には午後のリクエスト番組に使用している1階とほぼ同じ広さで3面ガラス張りのスタジオ（2ST）、さらにワンマンスタジオ（3ST）を設け、音声卓をデジタル卓に一新しました。

音声卓の選定

音声卓を選定するにあたり将来のマルチメディア放送の高品位番組制作を考慮して5.1chサラウンドに対応可能な卓であること、導入実績がありフリーズなどのトラブルが無く安心して使えること、旧社屋のアナログ卓の操作性と機能があまり変わらないこと、ワンマンオペレートが可能なおこと、緊急割り込みが簡単にできること、万が一フリーズが発生した場合、音声断とならずにCPUをリセットできること、そしてトータルコストが安いこと、という条件で検討しました。そして唯一マッチしたのがスチューダーの On-Air 3000 でした。





■ 1階の第1スタジオ



■開放的で明るい第1スタジオ・ブース



■ワンマン運用の第3スタジオ



■ゲストエリアを考慮した第3スタジオのデスク

音声卓の仕様

旧社屋のスタジオはミキサーがないと何もできない状態だったので、新社屋のスタジオは誰でも迷うことなく気軽に音声卓が操作できるよう同一機種にして操作の不安解消を図り、1ST、2STは同一仕様にしてスタジオのバックアップを兼ねることにしました。

1ST及び2STは18フェーダーでマイク入力12ch、ライン入力16ch(アナログ・ステレオ)及び8ch(AES/EBU)、ライン出力16ch(アナログ・ステレオ)及び8ch(AES/EBU)、3STは12フェーダーでマイク入力4ch、ライン入力12ch(アナログ・ステレオ)及び8ch(AES/EBU)、ライン出力12ch(アナログ・ステレオ)及び8ch(AES/EBU)の構成です。その他、マスター設備障害

時のバックアップ対策として、番組バンクやCMバンクの現用・予備の両方が完全にダウンした場合でも、各スタジオからDAWの一本化機能を使い、番組やCMをプレイリストで手動送出することが可能となっています。

導入後の感想

導入当初は不慣れなためモニター系の音量調整に戸惑いましたが、全チャンネルのダイナミクス(Limiter、Compressor、Expander、Gate、De-esser)や4バンドEQで細かな音作りができ、N-1バスやAUXセンドバスの状態がフェーダースクリーンに常に表示しているため現状の把握が容易で、タッチパネルの表示がカラーなので視覚的な判断もしやすく、またゲストの生演奏でフェー

ダーが足りなくなっても入力素材の変更が素早くできるなど、ミキサーの方々にも全体的にわかりやすく使いやすい卓と非常に好評です。導入から1年が経過して操作に十分慣れてきたためか、アナログ的な操作感覚のロータリーモジュールが今となっては不用になってしまい、何か別の用途に使えないか検討しています。

最後に、どのメーカーの音声卓も標準仕様だけでは100%満足とは言えません。スチューダージャパンの今後のためにあえて要望を申し上げればVU計、位相計は標準装備にしていだきたい。まだまだ放送に必要な装置と考えます。また次回のバージョンアップ時には、エフェクター機能を何種類か導入していただければ益々優れた使いやすい卓になることと思います。